

産衛だより

平成 20 年度第 1 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 14 日（土）13：00～17：00

場 所：日本公衆衛生協会ビル 3 階会議室

出席者：清水英佑（理事長）、相澤好治（副理事長）、植本寿満枝、圓藤吟史、大久保靖司、大前和幸、岡田 章、岸玲子、清田典宏、日下幸則、河野啓子、小林章雄、斉藤政彦、實成文彦、諏訪園靖、角田 透、土肥誠太郎、昇淳一郎、東 敏昭、福光ミチ子、藤田雄三、芳原達也、堀江正知、吉田 勉（以上理事）、大本美彌子、佐藤章夫（監事）

欠席者：荻野景規、加地正伸、車谷典男、高橋英尚、本橋 豊、広瀬俊雄

理事 24 名（委任状あり荻野景規、加地正伸、車谷典男、高橋英尚、本橋 豊、広瀬俊雄（地震の為））が出席しているので、定款第 25 条により理事会が成立していることを確認した。

清水理事長の挨拶の後、大前総務担当理事の進行役で会議が進められた。

議事録署名人に岸 玲子、清田典宏の両理事が指名された。

審議事項

1. 前回平成 19 年度第 4 回理事会議事録は了承された。
2. 選挙管理委員会について：大久保総務担当理事より 5 月 1 日に委員会が発足し、前回理事会で各部会から推薦することで了承されていた委員は、植本寿満枝理事・大久保靖司理事・吉田勉理事・福本正勝代議員・村田克代議員・佐々木好幸代議員が選ばれた。委員長には大久保靖司理事が選ばれたとの報告があった。
3. 特定保健指導における日本産業衛生学会登録産業看護師の活用について：河野理事より学会の資格として登録しているが、専門的知識及び技術を有する者としての活用を厚生労働大臣に要望してほしいとの申し出があった。今後は提案主旨を、学会誌に掲載し、産業看護師の位置づけを明らかにするとともに実績を作っていくことが要望された。
4. 中小規模事業場における産業保健活動の推進方策検討にあたっての要望書について：河野理事より産業看護部会として看護職の活用推進、活動環境の整備、雇用助成事業制度の構築等の要望書が提出され今後活動等を雑誌に載せていくことで了承された。また、地域産業保健センターに産業看護師がどの程度配置されているのか、といった実態調査も行う必要があるとの意見も出された。
5. 50 人未満の小企業における労働衛生管理に係わる法制度等に関する提案について：堀江理事より労働衛生関連法制度検討委員会から標題の提案があった。厚生労働省への提案書案概要は、1. 労働安全衛生マネジメントシステムの実施、2. 小企業において OSHMS を実施するための条件整備、等であったが、取扱い等について、内容を見直して雑誌に掲載するこ

とは委員会の判断とし、理事会では別途内容に関して検討することとした。また、提案書後段の「4. 産業衛生学会として行うべきこと」は、学会内部に関する意見であり、厚労省に対するものではないとの意見も出された。

6. 産業心理技術研究会設置について：角田理事より研究会設置願いに関する説明があり、森崎美奈子代表世話人からの申請を了承した。
7. ACOH 開催について：日下理事より ACOH から日本産業衛生学会理事会に出席要請が来ているとの報告がなされた。2011 年の大会については日本が引き受けるかどうか検討を要する。ACOH の理事会が 9 月 17 日に開催されるので、それまでに意見を収集し、9 月初旬にはメールによる理事会で決定することとした。尚、団体会費に関しては学会で負担することとした。
8. 次回理事会開催日について：次回は平成 20 年 9 月 23 日（火）、次々回は平成 20 年 12 月 20 日（土）に 13 時から公衛ビル 3 階会議室で開催することとした。
9. その他
 - ①部会・委員会細則について：大久保総務担当理事より前回の議論に沿って変更した内容に部会 8 条の文言の一部を訂正し了承された。
 - ②学術会議の出席について：清水理事長より公衆衛生関連学協会連絡協議会（仮称）の設立総会に理事長が出席することでの了承された。
 - ③第 19 回全国協議会について：大前総務担当理事より広瀬企画運営委員長（東北地方会・秋田市）で行うとの提案がありました。

報告事項

1. 第 81 回日本産業衛生学会について：岸企画運営委員長より HP が新しくなったこと、地域交流会への出席のお願い、当日 CD の最終版を配る準備をしていること、懇親会の席上で、設立からの写真集を披露するが、そのあとの保存と収集は本部で責任を持ってほしいとの報告があった。
2. 第 82 回学会シンポジウム企画案募集のお願いについて：堀江理事より企画を募集していたが、これまでのところ、提案がないので引きつづきお願いしたいこと、HP のリンクができたことの報告があった。
3. 第 18 回産業医・産業看護全国協議会について：昇企画運営委員長より 11 月 27 日～29 日に松山市総合コミュニティセンターにおいてメインテーマ「活力の創出とリスクの低減に貢献する産業保健」で開催するとの報告があった。
4. 産業医部会報告について：岡田理事より第 18 回全国協議会（松山市）参加の案内があった。また、幹事の増員（谷山佳津子・斉藤政彦・杉本寛治・弥富美奈子）の報告があったこと、事務作業は（株）ヒューマンリサーチに委託したとの報告があった。
5. 産業看護部会報告について：河野理事より産業看護師が 1,329 人になったこと、事務作業は（株）ヒューマンリサーチに委託したとの報告があった。
6. 産業技術部会報告について：堀江理事より前回どおりで産

業衛生技術フォーラム（6月27日）を札幌で開催し、第17回産業衛生技術部会大会・第7回産業衛生技術専門研修会（12月12日）を東京で開催するとの報告があった。

7. 専門医制度委員会報告について：東理事より登録者数（指導医241人、専門医133人、研修登録医442人）の報告があったこと、専門医試験受験者は30人であるとの報告があった。
8. ICOH2015年ならびに理事候補等の推薦について：東理事より日本は韓国を支援しといくこと、理事長には小木和孝先生を、理事には川上憲人先生を推薦することの報告があった。また、国内事務局は堀江理事が担当するとの報告があった。
9. 会員の状況について：大前総務担当理事より正会員7,442人（6月5日現在）の報告があった。
10. 協賛・後援等について：大前総務担当理事より＜日本医学会・日本産業衛生学会・主催＞＜日本循環器管理研究協議会・後援＞＜日本エアロゾル学会・共催＞＜日本生体医工学会・協賛＞＜第30回全国地域保健師学術研究会・後援＞＜第36回産業医学講習会・後援＞をしたとの報告があった。
11. その他
 - ①日本産業衛生学会の紹介について：清水理事長より紹介文を作成したので追加等があったら連絡してほしいこと、また文章が決まりしだいHPに掲載するとの報告があった。
 - ②名簿発行について：大久保総務担当理事より名簿発行をするにあたっての取扱いについて議論があり、規程を作成して平成20年5月末にでき上がり、雑誌と一緒に送付したとの報告があった。
 - ③労働衛生関連法制度検討委員会について：堀江理事より今後の方向として行政とのかわりについて学会の独立性を持って審議していくとの報告があった。

平成20年度総会議事録

日 時：平成20年6月24日（火）15：00～17：00

場 所：札幌コンベンションセンター B会場（特別会議室）

1. 開会：大前和幸理事の司会で開催した。
2. 理事長挨拶：清水英佑理事長が挨拶を述べた。
3. 企画運営委員長挨拶：岸 玲子企画運営委員長が挨拶を述べた。
4. 物故会員の報告：大前理事より、昨年の総会以降に山村晃太郎氏（名誉）、佐々木直亮（名誉）、馬目太永、小野寺正信、山村行夫（名誉）、鈴木武夫（名誉）、津田紘輔、市村博行、谷口 光、浅沼和子、田頭勇作、佐々木 謙、高島 豊、長谷部昭久、奥山富男、鈴木継美、斉藤剛輝、柏木正雄（名誉）、橋本哲明、土用下和宏、萩野茂継、原田 章（名誉）、井上佳代子、近山行夫、中川美賀、柏田恵理子、井原勝彦、岡田清、吉田亮運、戒田 久、三浦 肇、内藤正子、以上32名の諸先生方がご逝去された報告があり、ご冥福を祈り黙祷を捧げた。
5. 議長選出：岸 玲子企画運営委員長を議長に、清田典宏企画運営副委員長（北海道労働保健管理協会）を副議長に選出し議長席についた。以下、議長により議事が進められた。

6. 議事録署名人の指名：議長指名により議事録署名人には、森 満代議員（札幌医大）と宮崎由美子代議員（北海道労働保健管理協会）が指名された。

7. 総会の成立：議長の求めで、大前理事より、代議員数631に対して事前調査を行い、Eメールで連絡可能な312名にはEメールで、それ以外の319名には葉書を用いて通知を行い、400名から回答を受けた。出席者98名、委任状280名、合計378名で、定款第29条により本日の総会は成立していると報告され了承された。

議 事

第1号議案 機関誌の発行について

竹下達也編集委員長より、産業衛生学雑誌49巻1～6号の刊行はほぼ順調で22編が掲載された（投稿数27編）。Journal of Occupational Health (JOH) もほぼ順調で71編が掲載された（国内43編、国外28編）（投稿数217編）。JOHの印刷（学術振興会助成部分）は入札が必須となり、入札の結果（有）アイベックに決定した。平成19年度は680万円が交付された。また、今年度より編集委員長に川上憲人氏（東京大）を選出した。

質問や異議はなく、第1号議案は原案通り可決された。

第2号議案 平成19年度事業報告について

大久保靖司総務担当理事より、資料を基に概要の説明がなされた。

平田 衛代議員（労働安全衛生総合研究所）より、労働衛生関連法制度検討委員会から追加報告として、昨年6月に理事会に労働安全衛生規則の一部改正に関する意見書の検討を提案したが、電子メールでの検討となって厚労省担当理事が厚労省に意見書案を送り、厚労省職員幹部が筆を入れ、筆の入ったものを理事に配信した。このようなことのないように委員会はワーキンググループを作り理事会に申し入れをした。今後、1. 委員会からの提案がどのような決定プロセスを経て学会或いは理事会の意見となるか決めてほしい、2. 政府の審議会委員を務める場合は情報を収集してほしい、3. 後任の厚労省担当理事を早急に決めてほしい等の検討してほしいことについて提案があった。

また、矢野栄二代議員（帝京大学）より、学会は行政からは独立性がないと意味がない、臨床8学会と意見が違うから発言を控えるのでは独立性を放棄してしまうものである、新聞にも載り学会が行政の検閲を受けたこととなっているので経過報告をしてほしいとの意見があった。理事長より十分な議論をする時間がなかったこと、報告書が理事長宛ではなかったこと、理事長調停案として理事で調整した経過があったとの説明があった。担当理事を外れたのはプロセスをとった方法が間違っていたので責任をとって担当を辞めた。今後はそれぞれの課題によって理解のある理事を理事長が選び担当とすることにしていると説明があった。

大久保利晃代議員（放射線影響研究所）より、理事会の責任で今回のプロセスについてどこがおかしいか理事会としての結論を出して報告して欲しい、行政との関係をどうするのか、唯一の専門家の学会としての独立性がなければ意味が

ないので理事会で検討してほしいとの意見があった。

理事長より、十分に意見を入れて理事会で検討して還元していくとの回答がなされた。

その他、質問や異議はなく、第2号議案は条件を伏して原案通り可決された。

第3号議案 平成19年度決算報告案について

圓藤吟史財務担当理事より、平成19年度収支決算報告について資料を基に報告された。雑収入の中には今年度名誉会員に推挙される青山先生から10万円の寄付が含まれること、その他、地方会・部会・委員会・の収支計算書総括表、基金会計収支計算書等を作成したとの報告があった。この結果について大本美彌子監事より、佐藤章夫監事とともに平成20年5月1日に杉本賢司公認会計士の立会いの下に監査を行い、会計関係書類等を閲覧した結果、適正に経理と職務運営がされているとの報告がなされた。また、内部留保が多いとの指摘があり会員のために有効利用をお願いしたいと述べた。

質問や異議はなく、第3号議案は原案通り可決された。

第4号議案 平成20年度事業計画案について

大久保総務担当理事より、平成20年度事業計画案について資料を基に説明があった。

質問や異議はなく、第4号議案は原案通り可決された。

第5号議案 平成20年度予算案について

圓藤財務担当理事より平成20年度予算案について資料を基に提案された。編集委員会より学術定期刊行助成が600万円に減るとの説明があったが、予算案設定後の情報であり、今般は原案で認めてほしいこと、部会事務の一部外部委託に伴い支出項目を追加することになったことが新たな提案であると説明があった。

質問や異議はなく、第5号議案は原案通り可決された。

第6号議案 第82回日本産業衛生学会開催準備状況について

田中勇武企画運営委員長より、来年の第82回日本産業衛生学会は平成21年5月20～22日、特別研修会は23日に福岡国際会議場で、メインテーマは「超高齢社会を迎える日本その産業保健戦略は？」で行うこと、すべてインターネットに掲載されているとの説明と挨拶があった。

質問や異議はなく、第6号議案は原案通り可決された。

第7号議案 第83回日本産業衛生学会開催準備状況について

大久保総務担当理事より、平成22年度開催の第83回日本産業衛生学会は北陸甲信越地方会で開催することが理事会では承認しているとの説明があった。

質問や異議はなく、第7号議案は原案通り可決された。

第8号議案 第18回産業医・産業看護全国協議会開催地について

河野啓子産業看護部会長より、名称について4部会で検討しているがまだ結論が出ていないので18回は現行の名称で、4部会が協力して行うこととなったと説明があった。

昇淳一郎企画運営委員長より、本年度は平成20年11月27～29日に松山市総合コミュニティセンターで開催し、メインテーマは「活力の創出とリスクの低減に貢献する産業保健」として愛媛の特色を打ち出したプログラムを予定していると

の説明と挨拶があった。

質問や異議はなく、第8号議案は原案通り可決された。

第9号議案 第19回産業医・産業看護全国協議会開催地について

大久保総務担当理事より、第19回産業医・産業看護全国協議会開催地は東北地方会で開催することが理事会では承認されているとの説明があった。

質問や異議はなく、第9号議案は原案通り可決された。

第10号議案 第17回産業衛生技術部会大会準備状況について

田中 茂産業衛生技術部会副会長より、第17回は12月12日東京トラック事業健保会館で専門研修会は「化学物質の複合曝露」「化学物質のリスクマネジメント」、大会は「ナノ粒子の労働衛生管理」の講演を予定しているとの説明があった。

質問や異議はなく、第10号議案は原案通り可決された。

第11号議案 名誉会員の推薦について

大久保総務担当理事より、名誉会員に青山英康先生を推薦するとの説明があった。

質問や異議はなく、第11号議案は原案通り可決された。

学会賞は那須民江先生、奨励賞は田中昭代先生、福田 洋先生、功労賞は金光浩治先生に授与することが決定しているとの報告があった。

第12号議案 許容濃度等に関する提案について

大前委員長より、昨年度提案した物質等の暫定期間が終了し、特に意見がなかったので提案どおり本表に掲載することになるとの説明があった。

また、新たに次のものが暫定値として提案された。

(許容濃度の提案)

酢酸ベンチル	許容濃度 50 ppm 最大許容濃度 100 ppm
チウラム	許容濃度 0.1 mg/m ³
パーフルオロオクタン酸 (PFOA)	許容濃度 0.005 mg/m ³
マンガン及びマンガン化合物 (有機マンガン化合物は除く)	許容濃度 0.2mg/m ³
フェノール (生物学的許容値)	尿中総フェノール濃度* 250 mg/g クレアチニン (*: 遊離体, グルクロン酸抱合体, 硫酸抱合体)
	試料採集時期 作業終了時
エチレングリコールモノブチルエーテル (BE) とエチレングリコールモノブチルエーテルアセテート (BEA)	(生物学的許容値)
	尿中総プトキシ酢酸濃度 200 mg/g クレアチニン (BE, BEA に共通)
	試料採集時期 作業終了時
テトラヒドロフラン (生物学的許容値)	尿中テトラヒドロフラン濃度 2 mg/l
	試料採集時期 作業終了時
クロロベンゼン (生物学的許容値) < 2007年度の暫定からの変更 >	
	尿中4クロロカテコール (加水分解後) 120 mg/g クレアチニン

試料採集時期 作業終了時

発がん物質分類（発がん以外の健康影響を指標として許容濃度が示されている物質の表示）第2群A物質（以下の5物質について表示を行う）

アクリロニトリル, 3,3-ジクロロ-4,4-ジアミノジフェニルメタン (MBOCA), ベリリウムおよびベリリウム化合物, ポリ塩素化ビフェニル類 (PCB), 硫酸ジメチル
以上の提案に質問や異議はなく, 第12号議案は原案通り可決された。

第13号議案 その他

城 憲秀代議員（中部大学）より, 第18回日中韓産業保健学術集談会に際してご協力, 助成のお礼があり, 280名強の参加があったことの報告があった。

その他, 意見・提案はなく閉会となった。

平成20年度第2回産業衛生技術部会 企画委員会議事要旨

日 時：平成20年6月14日（土）13：30～15：30

場 所：早稲田大学創造理工学部環境資源工学科会議室（大久保キャンパス51号館12階）

出 席：名古屋俊士（早稲田大）, 中明賢二（麻布大）, 加藤隆康（グッドライフデザイン）, 今井常彦（東邦大）, 田中 茂（十文字学園女子大）, 野原誠一郎（化繊協会）, 村田 克（労研）

1. 平成19年度報告および平成20年度計画案について

・日本労働衛生工学会との共催研修会（労働衛生基礎講座「石綿をめぐる最近の動向について」）を, 5月に東京トラック事業健保会館で行った。次回は9月の予定。（名古屋）

2. 第17回産業衛生技術部会大会開催案の検討

日程：平成20年12月12日（金）午後1時から, 会場：東京トラック事業健保会館

メインテーマ：「ナノ粒子の労働衛生管理」（仮題）（演者交渉中）

3. 産業衛生技術フォーラム（平成21年福岡）の開催について

・テーマ案「高齢者の衛生管理」

労働者の高齢化に伴う, 曝露期間の延長や体力の低下などについての講演

4. その他

・関東地方会例会について：

平成20年12月13日（土）, 十文字学園女子大において, 関東産業衛生技術部会の担当で開催。「管理栄養士の産業保健への展開」についての講演や「栄養指導」についての実地研修を予定。

・産業衛生技術部会の「範囲」について：

従来からの主な分野だけにこだわらず, 産業衛生に関わる分野からの入会を歓迎する。

平成20年度臨時（第3回）産業衛生技術部会 企画委員会議事要旨

日 時：平成20年8月30日（土）13：30～15：30

場 所：早稲田大学大久保キャンパス51号館11階11-11室

出 席：名古屋俊士（早稲田大）, 中明賢二（麻布大）, 加藤隆康（グッドライフデザイン）, 田中 茂（十文字学園女子大）, 落合孝則（東工大）, 山野優子（昭和大）, 村田 克（労研）

1. 来年春の学会（福岡）での部会行事について

a. 産業衛生技術フォーラムの開催

テーマ案：「労働者の高齢化と安全衛生管理一どのように対応すべきか 産業衛生技術者の役割」

・各演題と演者を決めた。

b. 第8回産業衛生技術専門研修会の開催

研修項目案：・騒音, 振動 ・暑熱（またはテキストから未開催のテーマを選定）

2. 第7回産業衛生技術専門研修会, 第17回産業衛生技術部会大会について

日程：平成20年12月12日（金）

会場：東京トラック事業健保会館（東京都千代田区四番町5-7）

10～12時 第8回産業衛生技術専門研修会

1 「化学物質の複合曝露」大前和幸（慶應大）

2 「化学物質のリスクマネジメント」

原 邦夫（久留米大）

12～13時 産業衛生技術部会幹事会

13～17時 第17回産業衛生技術部会大会

テーマ：「ナノ物質の労働衛生管理」

演者および演題（仮）：森本泰夫（産医大）「生体影響」

甲田茂樹（安衛研）「職場の実態」

田中 茂（十文字学園女子大）

「労働衛生保護具」

3. 産業医・産業看護全国協議会への協力について

従来通り, 産業衛生技術部会の立場は「後援」とする。

4. その他

a. 中明賞への推薦について

推薦状が1通届いている。引き続き候補者を募集する。

b. 部会事務委託について

会員の管理および会計収支の集計事務作業を（株）ヒューマンリサーチに委託する。

平成20年度第2回専門医制度委員会議事録

日 時：平成20年8月24日（日）16時～17時30分

場 所：オンワード総合研究所 人財開発センター

出席者：委員長：山田誠二

委 員（五十音順）：石竹達也, 杉本寛治, 広瀬俊雄,

宮下和久, 武藤孝司, 森 晃爾（事務局）

顧 問：大久保利晃

オブザーバー：東 敏昭（学会担当理事）

I. 報告事項

1. 指導医・専門医・研修医登録状況について
事務局より、8月15日現在の専門医数（指導医254名、専門医117名）について報告があった。
2. 平成20年度（第16回）専門医資格認定試験の結果について
(1) 財団法人労働衛生会館からの協賛いただき、全日程が無事終了したことが報告された。
(2) 筆記試験部会長より筆記試験の結果が報告された。
(3) 口頭試験部会長より口頭試験の結果が報告された。
3. 第18回産業医・産業看護全国協議会（愛媛）における専門医認定証授与式について
事務局より、11月28日17時～17時30分の予定で、松山市総合コミュニティセンター1階キャメリアホール（A会場）で開催されることが報告された。
4. 平成21年度専門医資格認定試験実施日程について
事務局より、平成21年8月22日（土）・23日（日）の日程で、オンワード総合研修所人財開発センターで開催され、資格認定証授与式は、平成21年11月7日に第19回産業医・産業看護全国協議会（秋田）の席上で行われる予定であることが報告された。

II. 審議事項

1. 平成20年度（第16回）専門医資格認定試験合否について
筆記試験および口頭試験のいずれにも合格した29名を専門医認定試験合格者として承認した。
2. 特別措置による指導医の合否について
申請のあった1名について判定を保留とした。
3. 指導医資格更新の合否について
(1) 「経過措置による指導医」第2期の第3回目更新該当者で、保留扱いとなっていた3名の更新を承認した。
(2) 「専門医から指導医」第6期の1回目の更新者で、保留扱いとなっていた1名の更新を承認した。
4. 専門医資格更新の合否について
(1) 第10回「専門医」更新暫定者1名について、専門医名簿から削除することを承認した。
5. 日本産業衛生学会専門医の名称「産業衛生専門医」に伴う規則・細則改訂について
新たに、①本制度の専門医の名称を「産業衛生専門医」とすること、②産業衛生専門医および指導医の英語表記を明記すること、を定義した第1条を加えること、第2条（旧第1条）第1項の専門医制度委員会の委員構成について、学会理事・学会員の区別なく定数を7名とすると表現すること、およびこの改訂の施行を平成20年12月1日からとすること、が承認された。本改訂については、次回理事會に諮られるよう理事會に依頼することになった。
6. 専門医資格試験の実施方法等について
(1) 専門医試験時のパソコン使用については引き続き検討することとし、来年度の試験では導入を見送ることが了解された。
(2) 筆記試験および口頭試験の改善案について、各試験部会で検討することとなった。

7. 第82回産業衛生学会総会（福岡）における専門医制度パネルディスカッションの内容および演者について検討を行った。
8. 次回委員会を、平成21年1月25日（日）13時～16時30分の予定で、東京において開催することになった。

事業所における新型インフルエンザ対策への提言 —（社）日本産業衛生学会 産業医部会の立場より—

目的：事業者が事業所における新型インフルエンザ対策を実行するにあたり、（社）日本産業衛生学会産業医部会の立場より、感染予防のための方策を事業者並びに関係者に提唱するものである。本件は医学的、並びに労働安全衛生に関する重要課題であるため、対策の立案に当たっては専門的立場にある産業医の意見を聞き、的確な判断をされることを切望する。なお、本文は厚生労働省第8回新型インフルエンザ専門家会議資料「事業者・職場における対策について（改訂版）」（2008.7.30）（2008.10末頃、同省より正式ガイドラインが発表される予定である）を事業者が熟読され、理解されているという前提で提言するものであること、従って基礎的事項を省略すると共に記述の重複を避け、重要点を申し述べるものであることをあらかじめお断りしておく。更に新型インフルエンザに関しては不確定推定要素も大きく、常に最新の知見と情報を入手されることを望む。

提言-1 対策への取り組みに関して

1. すべての事業者は企業の社会的責任を全うするという観点に立ち、自ら率先して真摯に対策の責任者となり、危機管理体制の組織作りをされたい。
2. 感染症対策の王道は「隔離」であり、人が隔絶され物流が阻まれることを認識されたい。医薬品に至るまで、供給が困難な状況下になることもあり得る。
3. フェーズ3の現時点においてこそ、基本的、具体的対策の策定と同時に、産業医の指導・助言のもとに従業員の衛生教育を実行すべき段階にあることを認識されたい。

提言-2 事業所内の診療所並びに健康相談所での対応に関して

1. 従来型インフルエンザと新型インフルエンザがほぼ同時に流行した場合、従来型インフルエンザワクチンの接種は従来型への感染予防に役立つとともに、両者のインフルエンザの鑑別にも有用である。この観点より従来型インフルエンザワクチンの接種を推奨するが、実行は事業所の状況に即されたい。
2. 速乾性擦式消毒用アルコール製剤を常備されたい。
3. 患者用として医療用サージカルマスク（外科用マスク）を常備し、咳嗽患者へは急ぎ着用を指導されたい。
4. 医療従事者向けに保護具（ゴーグル・フェイスシールド・手袋・マスク（N95以上）・予防用ガウン等）を常備されたい。これは万一、新型インフルエンザ疑い患者もしくは罹病者が入室（入所）してきた場合への対応で、決して診療行為を容認しているものではないことを理解して戴きた

い。

- フェーズ4以上で、特に新型インフルエンザの国内発生が確認された時点では、診療所並びに健康相談所においては、咳嗽発作を有し、38℃以上の患者もしくは新型インフルエンザ罹患の疑いのある者の診察、対面の相談は断り（入室も禁止、会議室等に隔離）、直ちに所轄保健所へ連絡し、指示を仰ぐことを従業員へ事前に周知徹底されたい。これは事業所内感染拡大防止の為の措置であることを理解されたい。
- 通常の医薬品・器材の流通も制限されることを考慮し、かつ、医療従事者の不測の事態に備え、医療従事者の了解と管理の下に、通常の医薬品・器材に加え、抗インフルエンザ薬としての経口剤、リン酸オセルタミビル（商品名：タミフル）、並びにもしくは経口吸入剤ザナミビル水和物（商品名：リレンザ）の備蓄をされたい。但し、ザナミビル水和剤は呼吸器への防御機能のみを有すること、リン酸オセルタミビルにはすでに耐性株が認められたという報告があること、新型インフルエンザは多臓器障害を惹起する可能性を有すること、などを堪案して対策を取るよう勧められたい。

なお、備蓄は人道上、並びに安全配慮義務の観点からの考えであり、決して占有・独占に至らないよう格別の配慮をされたい。

提言-3 海外勤務者に関して

- 現地並びに日本国内での各機関（参考資料参照）より情報収集を計り、随時、周知・広報し得る状態とされたい。
- フェーズ4で、当該国もしくは地域で感染集団はいまだ小さく限定されている時期でも、往来は封鎖状態となるため、この地域内従業員への連絡が取れなくなることも想定されたい。場合によっては、面談のみならず、通信手段の確保も困難となり得ることを想定されたい。
- 発生初期の段階でも流行国もしくは地域によっては物流不全が惹起され、生活物資はもとより医薬品・器材、抗インフルエンザ製剤の入手が困難となる一方、医療機関への受診も充分になし得ない状況も想定される。生活物資や医薬品・器材の備蓄を検討されたい。
- 海外での薬品の備蓄については当該国もしくは地域の事情をよく把握し、適切に対応されたい。
- 海外事業所、事務所において医薬品・器材の備蓄、保管については、日本人会、大使館等関係機関とよく相談し、殊にその使用については格段の配慮をされたい。特に抗インフルエンザ剤の使用範囲（どの時点で誰に投薬するのか）の詳細を決定しておかないと現地従業員とのトラブルが発生し、帰属意識の低下など事業継続に対しての影響も予想され得る。慎重な対応が望まれ一事業所の問題にとどまらず国際問題にまで発展しかねない状況を認識されたい。

提言-4 海外勤務者及びその家族の帰国に関して

- フェーズ4で当該国もしくは地域での小集団発生が確認されている時期、あるいはそれ以上の流行国もしくは地域よりの帰国者については、なんら症状を認めない場合でも、入社により事業所が感染源となり得ることを想定し、10

日間の自宅待機を指示されたい。

- 帰国者がなんらかの症状（発熱・咳嗽に限らず）が認められた場合は、先ず本人より所轄保健所へ連絡しその指示を仰ぐよう指導されたい。事業所内診療所や健康相談所への直接の来診は厳禁とされたい。万一同所内が感染源となった場合は、当該事業所全体が閉鎖されることを認識されたい。
- フェーズ4で流行が、小集団ながら確認された、あるいはそれ以上の国もしくは地域に滞在し、かつ発熱、咳嗽を有する者が帰国の希望を申し出た場合でも、航空会社が搭乗を拒否し、かつ、現地関連機関により拘束状態におかれ、出国が認められないことも想定し、原則的に現地医療機関に早急に受診させるよう指導されたい。このため、現地医療機関などの調査を行い、受診先の周知も検討されたい。感染者への濃厚接触者や家族なども一定期間の自宅待機もしくは隔離が課せられ出国もできないことを想定されたい。国もしくは地域によって、この対応が異なることも理解されたい。帰国希望者への安易な応諾は厳しく慎まれ、関係機関とよく相談されたい。
- フェーズ4で当該国もしくは地域で流行が確認された段階では、実際の集団発生日域からの距離に無関係に（例えば30 km 離れているから大丈夫と考えない）家族を含め勤務者を当該地域より脱出させることも種々な情報を収集して事前に検討されたい。脱出が流行拡大を惹起させ得ることもあり、当該国もしくは地域の方針を尊重した上での確な対応をとられるよう切望する。この場合、現地従業員への対応も慎重を期されたい。

尚、情報入手先リストに下記を追加する。

●JOHAC

<http://www.johac.rofuku.go.jp>

●海外勤務者健康管理全国協議会

<http://www.sigma-k4.jp>

「事業所での新型インフルエンザ対策」ワーキンググループ委員
(五十音順)

- | | |
|-------|---|
| 岩田全充 | (社)日本産業衛生学会 産業医部会幹事
トヨタ自動車(株)健康支援センター所長統括産業医 |
| 浦野澄郎 | 海外勤務者健康管理全国協議会 幹事
パナソニック健康保険組合 健康管理センター所長 |
| 岡田 章 | (社)日本産業衛生学会 産業医部会長
(医)起生会 理事長 |
| 木村正儀 | 海外勤務者健康管理全国協議会 幹事
住友商事(株)本社 診療所長 |
| 久保田昌詞 | 海外勤務者健康管理全国協議会 実行委員
(独)労働者健康福祉機構 大阪労災病院 |

勤労者予防医学センター部長

- 阪上賀洋 前 大阪市立総合医療センター 感染症センター部長
三洋電機(株) 洲本工場産業医
- 濱田篤郎 海外勤務者健康管理全国協議会 幹事
(独) 労働者健康福祉機構
海外勤務健康管理センター所長代理
- 福本正勝 (社) 日本産業衛生学会 産業医部会幹事
(財) 航空医学研究センター 検査・証明部長
- 彌富美奈子 (社) 日本産業衛生学会 産業医部会幹事
(株) SUMCO 伊万里事業所統括産業医

以上

2008 (平成 20) 年 10 月 10 日

(社) 日本産業衛生学会 産業医部会

平成 20 年度新入会者

[北海道] 齊藤浩記, 篠原百合子 [宮城] 佐々木尚子, 長谷川洋子 [秋田] 平野敏一 [福島] 辻 満, 中鶴圭子 [茨城] 日下恵里, 平川真弓 [栃木] 小野正見, 高田美鈴 [千葉] 青山邦子 [東京] 伊狩紀宏, 大久保景子, 監物友理, 小林茂勝, 篠崎康子, 白井弘三, 富田川智志, 守谷俊平, 山田美和, 山寺博史, 山本美貴 [神奈川] 吉永陽子 [富山] 田口佳代子 [石川] 武政奈保子 [福井] 西坊直恭 [山梨] 磯部智子 [山梨] 長畑香奈子 [長野] 小木曾俊, 八上公利 [静岡] 洲崎好香, 中野雄一郎, 野上愛里子 [愛知] 加藤貴人, 清水真弓, 丹羽克誌, 藤丸郁代, 三浦裕次, 水野光仁 [滋賀] 鈴木仙太郎, 守田 浩 [京都] 大池奈津子, 甲斐千恵美, 桑村明男, 阪上 優, 畑尾亜紀 [大阪] 花田由美子, 前田和美 [兵庫] 宇多川末帆 [奈良] 濱崎直樹 [和歌山] 浅井 淳, 井口廣昭 [鳥取] 中林琴美, 矢引裕子 [岡山] 飯田真理子, 谷口敏代, 平井応匡, 山本英二, 頼藤貴志 [広島] 阿部春香, 山川路代 [高知] NLANDU NGATU [福岡] 久保陽子, 桑原まゆみ, 白石輝久, 花井美佐江, 松嶋康之, 山中 淳 [長崎] 山口健一